

# 修士学位論文

題名 広東語の“界”の通時的研究

—道具標識の文法機能を中心に—

頁1～32頁

指導教員 飯田真紀

2022年 1月 11日提出

人文科学研究科 文化関係論 中国文学専攻

学修番号 20822101

ふりがな ごしょうこう  
氏名 吳昭恒

## 目次

序論.....	2
本論.....	6
一、“界”の語義と文法機能.....	6
1.“界”の古代の文法機能.....	6
2.“界”の近現代の文法機能と文法構造.....	8
二、“界”の文法構造と文法化.....	13
1.動詞“界”から与格標識.....	14
2.動詞“界”から使役動詞、使役動詞から受身標識.....	15
3.道具標識までの文法化.....	17
三、道具標識“界”の衰退.....	19
1.通時的分析から見る“界”の衰退.....	19
2.道具標識“用”との比較.....	23
終わりに.....	24
参考文献.....	26
引用例出典.....	28
付録1.....	30
付録2.....	32

## 序論

本論文の研究対象は広東語（広府片）の多機能語“𠵼”である。“𠵼”の諸機能の文法構造についての検討を通じ、“𠵼”の文法化の過程を明らかにする。その文法化の過程についての分析に基づき、諸機能のうち、道具標識を取り上げ、その通時的変遷を明らかにする。

広東語は中国語の方言の一つとして数えられ、中国語では一般に「粵語」、或いは広東省や広西チワン族自治区で「白話」と呼ばれ、方言の位置付けを明確にすれば、「粵方言」と呼ばれる。「広州話」（広州方言）はその代表である。

下位方言に関しては、広東語は広府片（粵海片としても知られる）、四邑片、高陽片、勾漏片、吳化片、邕潯片、欽廉片の七つの下位方言に分けられている。<sup>[1]</sup>中国語方言における「片」というのは方言の下位分類のことである。学界では広府片が広東語の代表と認められている。つまり、狭義の広東語は広府片を指す。本論文の研究対象は広東語広府片の“𠵼”であるため、これ以降、「広東語」は広東語広府片を指し、「粵語」は広東語全体（広府片以外の他の下位方言も含む）を指すこととする。

粵語は、広東省のみならず、広西チワン族自治区、香港、マカオなどでも通用する、嶺南地区の優勢方言である。汎珠江デルタ地区、広東省西部地区の一部、広東省北部地区の一部、広西チワン族自治区の東部地区、広西チワン族自治区の南部地区、広西チワン族自治区西部地区の一部、広西チワン族自治区中部地区の一部、海南島の一部に分布している。<sup>[2]</sup>

さらには、過去百年間の粵語話者の移民活動により、粵語は海外にも幅広く分布している。例えば、アメリカ、カナダ、オーストラリアの中華街、またベトナム、マレーシア、シンガポール、インドネシアなどに粵語話者がいる。

## 先行研究

詹伯慧（1999）及び詹伯慧（2008）によれば、他の方言と同様に、早期の広東語研究は音韻が中心であり、文法研究の増加は20世紀50年代頃からのことである。70年代、香港と中国大陸は相次いで広東語研究の繁栄時期に入り、そこから、広東語文法についての研究が漸次増えていく。

中でも広東語の多機能語の一つとして、“𠵼”が長い間、研究者から注目されている。

辞書を見ると、“𠵼”の語義と文法機能に関するいくつかの説がある。張勵妍、潘禮美、倪列懷（2018）は“𠵼”の意味は主に二つあり、それは「与える」という意味の動詞と受身標識であると述べている。歐陽覺亞、周無忌、饒秉才（2018）は“𠵼”自体が動詞「与える」という文法機能と語義を持ち、“𠵼”または“俾”が使役動詞、受身標識、道具標識の三つの文法機能を持つと述べている。なお、“𠵼”や“俾”といった漢字表記の違い、及び各機能の具体例については第一章で後述する。陳雄根、張錦少（2019）は“𠵼”の語義と文法機能をさらに細分化し、「与える」という意味、受身標識、「（調理する時に）」

<sup>[1]</sup> 中国社会科学院语言研究所、中国社会科学院民族学与人类学研究所、香港城市大学语言资讯科学研究中心（編）2012.《中国语言地图集：第2版·汉语方言卷》：125页。北京：商务印书馆。

<sup>[2]</sup> 付録を参照する。海南省儋州市、白沙黎族自治县、昌江黎族自治县に分布している儋州話と主に海南省三亜市に分布している邁話は粵語と認められるが、所属の下位方言は未定である。中国社会科学院语言研究所、中国社会科学院民族学与人类学研究所、香港城市大学语言资讯科学研究中心（2012）の説明「B2-7 海南省の漢語方言」を参考する。

材料、調味料を入れる」という意味、「専念する」という意味、「駆使する」という意味、「許可する」という意味、道具標識に分けている。

Light (1977) は主に広東語母語話者の第二言語習得の言語表現を研究したが、“畀”のいくつかの文法機能と各文法機能の関係にも言及した。「与える」という意味を持つ動詞以外に、“畀”が「受益者標識 (benefactive marker)」、「与格標識 (dative marker)」、「使役標識 (permissive marker)」と「受身標識 (passive marker)」の四つの文法機能を持つと指摘している。そして、中国における民族共通語の普通話の影響を受けたのではなく、“畀”の受身標識の文法機能は“畀”の動詞の文法機能から発展したものと論じる。

“畀”についての研究は主に以下の3種類に分けられる。

一つ目は主に“畀”の語源を論じるものである。例えば、戴志偉 (1987) は古代漢語の用例をあげ、方言字“畀”と“俾”の意味の違いを検討した。

二つ目は主に“畀”のもつ文法機能を検討するものである。例えば、楊奔 (2018) はチワン語の受身標識と比較し、広東語の受身標識“畀”の由来、文法構造と使用場面を検討した。

三つ目は“畀”の文法機能だけでなく、文法化についても論じたものである。例えば、Chin (2011) と林晓玲 (2014) は“畀”のいくつかの文法機能とその文法構造を分析し、“畀”の文法化を検討した。

“畀”の文法機能と道具標識の文法化については、研究者によって意見が異なっている。Chin (2011) は他言語、或いは他の方言の「与える」という意味を持つ動詞の文法機能を参照し、“畀”の文法機能を検討した。その結果、「間接目的語の標識 (indirect object marker)」、「受益者標識 (beneficiary marker)」、「使役動詞 (causative verb)」、「受身標識 (passive marker)」、「道具標識 (instrument marker)」がその文法機能であると指摘している。その一方、林晓玲 (2014) は“畀”の文法機能を「道具標識」、「使役動詞」、「受身標識」、「与格標識 (dative marker)」に分けている。つまり、「受益者標識」の文法機能について両者の間には意見の相違がある。

“畀”の道具標識の文法化について、Chin (2011) は、道具標識の“畀”は使役動詞の“畀”から発展したものと考えている。その理由は、“畀”の使役文の文法構造も道具標識の文法構造も共に「NP1+畀+NP2+VP」であるからである。そして、この二つの文法構造に因果関係があるとみなす。なぜならば、“畀”の使役文の文法構造において、主語が主観的に結果を決める一方、道具標識の文法構造では、道具が客観的に結果に影響を及ぼすからである。

一方、林晓玲 (2014) は、道具標識の“畀”は「与える」という意味を持つ動詞“畀”から直接的に発展したもので、文法構造が「畀+NP+嚟+VP」であるものが、その後、意義の虚化のため、文の前後を繋ぐ“嚟”が脱落し、“畀”の道具標識の文法構造が「畀+NP+VP」となったと考えている。

“畀”の道具標識の文法機能について、Wong (2009) は普通話の“給”と広東語の“畀”との比較を通じ、“畀心機”という固定フレーズでの“畀”の文法機能は、“給”が持っていない文法機能であると指摘した。ただし、“給”と“畀”との違いについては数点述べられるにとどまり、詳しく論述されていない。

その上で、Chin (2011) は“畀”の道具標識の文法機能は若い話者の中であまり生産的ではなく、19世紀から20世紀初頭までの広東語でよく見られ、現代広東語における“畀心機”のような固定フレーズしか常用されないと指摘している。しかしながら、広府片外、台山、四邑などの地域では“畀”の道具標識の文法機能が生産的であるとのことであ

る。

林晓玲 (2014) は道具標識の“𠵼”が“用”に取って代わられていると指摘しているが、“𠵼”と“用”についてそこからさらに論述したものは見られない。

“𠵼”についての上記のいくつかの先行研究の問題点をまとめると、Wong (2009) は普通話の“給”と広東語の“𠵼”を比較し、両者の文法機能の共通点と相違点に着目したが、詳しい論述がなされていない。Chin (2011) と林晓玲 (2014) は“𠵼”の文法化について論じるが、個別の文法機能について詳しく論述するものが多くないと思われる。特に、道具標識の文法機能が近年劣勢になっている現象について言及したものがあるが、詳述したものは見られない。そこで、本論文は道具標識を中心に、“𠵼”の各文法機能の構文と文法化の過程を検討し、道具標識“𠵼”の通時的変遷を明らかにする。

## 言語資料と研究方法

近代以前の中国社会は長い間「言文分離」という状態にあった。当時の文字資料は、話し言葉と著しく乖離した言葉（文言）で主に書かれていた。つまり、広東語の話者らは生活の場面では広東語で話していたが、その話している言語の特徴は文字資料に十分に反映されていない。そのため、当時の広東語の使用状況を理解するのは容易ではない。現存する最古の広東語で書かれた書物は明代後期の木魚書『花箋記』であるが、この時期のもので今に伝わる作品は多くない。現在見られる広東語で書かれた書物は、そのほとんどが19世紀以降の作品である。言語資料の入手可能性を考慮し、本論文は、19世紀以降の言語資料にあらわれる“𠵼”について考察する。

以下、19世紀以降の広東語言語資料について説明する。

早期の言語資料は主に木魚書、粵謳などの民間芸能のテキストである。

木魚書は木魚歌の歌集である。木魚歌は珠江デルタ地域で人気のある民間芸能の一種であり、明代後期に始まり、清代に栄えた。清代後期から中華民国期まで、佛山、東莞、広州、香港などには木魚書を出版した有名な書店が多く存在した。早期の木魚書、例えば、明代後期の『花箋記』は文体が「浅近文言」（hemi-classical Chinese）であり、時折口語的な言葉が挿入される。浅近文言とは、文言の文法に従いつつも、わかりやすく、馴染みのない言語表現を用いない書き言葉である。

粵謳もまた珠江デルタ地域の民間芸能の一種である。清代中期、挙人の招子庸が多数の作品を書き、『粵謳』という本を出版した。その後、粵謳が流行することとなった。

19世紀以降の木魚書と粵謳は文体が主に文言と口語が混ざりあっているものであり、全体として見ると口語体の色彩が強い。韻を踏む必要があるが、押韻規則は厳しくなく、時折地方の俗語が挿入され、明らかな方言の特徴を持っている。

それ以外に、宣教師の手による言語資料がある。

キリスト教の信仰を広めるために、宣教師ロバート・モリソンが1807年に中国に入ったのを皮切りに、欧米からの宣教師が次々と中国に入ってきた。これらの宣教師は、官話が一部の地域で普及しておらず、地元のある方言がより普及していることに気がついた。より深く布教するために、彼らは方言を学び、聖書を方言に翻訳し、方言の教科書を編集した。これらの聖書の訳本と方言の教科書は当時の広州、香港、マカオなどの地域で普及していた辞書を参考とし、主に広州話の話し言葉で書かれた。これらの書物も当時の方言を研究する重要な言語資料である。これらは香港科技大学の研究者によって電子化され、一般に公開された「早期粵語標註語料庫」というコーパスとして利用できるため、本論文ではこれを用いて聖書の訳本と方言の教科書の言語資料を集める。

さらに時代が下ると、映画の言語資料が利用できる。

1931年、中国の初の発声映画『歌女紅牡丹』が上海で公開された。その後、発声映画が流行している。20世紀中期、特に香港では、映画製作者が多数の発声映画を制作した。これらの発声映画の中には当時の広東語の話し言葉の音声データがかなりの量保存されており、香港教育大学の研究者によって「香港二十世紀中期粵語語料庫」というコーパスとして電子化され、一般公開されたものが利用できる。そこで、このコーパスを通じて、それらの発声映画に保存されている言語資料を考察に用いる。「香港二十世紀中期粵語語料庫」は20世紀40年代から70年代までの60本の香港映画におけるセリフの音声と文字記録のコーパスである。これらの言語資料のほとんどは広東語の話し言葉である。

最後に、言語の通時的分析を網羅的に行うために、最近の広東語の話し言葉の言語資料を集める必要がある。そこで、香港大学の研究者が構築した「香港粵語語料庫」というコーパスと中山大学、暨南大学及び華南理工大学の研究者が構築した「広州話口語有声語料庫」というオンラインで一般公開されたコーパスを通じて、現在の広東語の“界”の使用状況を分析する。「香港粵語語料庫」には1995年から1998年までの会話93件（うち51件は会話中に録音され、42件はラジオ番組から編集されたもの）と個人的な独白1件が含まれる。話者の多くは香港出身、広州や北京出身の話者も数名いる。一方、「広州話口語有声語料庫」には2010年広州の九つのラジオ番組における21時間の談話の音声と文字記録が含まれる。広東語を細分化すると、香港の広東語と広州の広東語の間にはいくつかの相違点があるが、これらの違いはほとんど語彙面の違いであり、文法的には両者ともほぼ同じである。したがって、ここでは香港のコーパスも広州のコーパスも利用する。

以上の各時期の“界”の言語資料を対象に、文法機能によって文例を考察し、文法構造の分析に基づき、“界”の文法化の過程を検討する。また、“界”の道具標識に着目し、文例の通時的分析と他の道具標識との比較を行い、道具標識の文法機能の衰退を明らかにする。

## 論文の構成

本論文の構成は以下の通りである。第一章では“界”の古代と近現代の語義と文法機能について述べる。第二章では“界”の各文法機能の構文を分析し、“界”の文法化について論じる。第三章では道具標識“界”について通時的分析を行い、他の道具標識と比較し、その衰退の現象を考察する。

## 本論

### 一、“畀”の語義と文法機能

#### 1.“畀”の古代の文法機能

李新魁(1994)によると、粵語の形成は春秋時代に遡ることができる。当時、楚国人は南に行き、嶺南地区に統治権を確立した。楚語は嶺南地区の土語と融合し、徐々に粵語を形成した。現代粵語を調べると、多くの古代中国語の語彙が粵語に保持されていることが分かり、“畀”がその一つである。

古代中国語における“畀”の本義は「与える」という意味である。『爾雅·釈詁』には“畀”について次のようにある。

畀，賜也。

〔“畀”とは、“賜”である。〕

『説文解字注·丌部』にはより詳細な解釈がある。

畀，相付与之約在閣上也。

〔“畀”とは、付与される物が机の上にあることである。〕

段玉裁の注釈によると、“約”は“物”と書くべきであるという。昔、人が物を与える時に必ずその物を机の上に置いた。“丌”とは、物の下に敷く道具である。そのため、“畀”の下部は“丌”である。したがって、“畀”の本義は「与える」という意味である。

音韻面について『説文解字注·丌部』には次のようにある。

畀，从丌，由聲。

〔“畀”の意味は“丌”と関係があり、“由”と発音が似ている。〕

段玉裁の注釈によると、“由”の読み方は“敷勿切”であり、“畀”の読み方は“必至切”である。“切”とは“反切”であり、漢字の音韻を示す方法である。“畀”は“必至切”で示され、“必”の声母と、“至”の韻母および声調とを組み合わせ、“畀”の読み方を導くものである。例文は以下の通り。

(1) 帝乃震怒，不畀洪範九疇。(《尚书·洪範》)

畀 +NP

〔天帝は激怒し、(鯀に) 国を統治する九つの方法を与えなかった。〕

(2) 分曹、卫之田以畀宋人。(《左传·僖公二十八年》)

畀 +NP

〔(晋文公は) 曹国、衛国の田畑を宋国人に分け与える。〕

(3) 有能告者，以其半畀之。(《史记·平淮书》)

畀 +NP

〔摘発者がいれば、(取り戻した脱税の) 半分をその人に与える。〕

例文(1)、(2)と(3)に示すように、“畀”は「与える」という意味を持つ動詞であり、“畀”の後に目的語が付く。例文(1)の目的語は動作「与える」が向けられる物を表し、例文(2)と(3)の目的語は物が与えられる人を表す。

さらに、“畀”は与格標識の文法機能を持つ。例文は以下の通り。

(4) 取彼譖人，投 畀 豺虎。（《詩經・小雅・巷伯》）

VP +畀 +NP

[他人を誣告する人を豺狼と虎に投げ与える。]

例文(4)に示すように、“畀”の前に動詞“投”（訳文：投げる）があり、“畀”の後に目的語が付く、その目的語は投げられる物事の受事者である。“畀”が与格標識として投げられる物事の受事者を提起する。

上記以外に、“畀”は使役動詞とすることができ、それは「委託する、許す」という意味である。“俾”と書くこともできる。『爾雅・釈詁』には“俾”の意味として以下の説明を挙げている。

俾，使也。俾，從也。

[“俾”とは、“使”である。“俾”とは、“從”である。]

『説文解字注・人部』にも解釈がある。

俾，益也。俾，門侍人。

[“俾”とは、“益”である。“俾”とは、木戸番である。]

上記によると、“俾”には二つの意味がある。一つ目は「召使い、木戸番」という意味である。二つ目は「利する、役に立てる」という意味であり、現在では“俾”ではなく、“裨”と書く。段玉裁は「召使い、木戸番」という意味が「利する、役に立てる」という意味から発展したものと注釈したが、“俾”は偏旁が“亻（人）”部のため、本義が「召使い、木戸番」という意味の可能性がより高いと思われる。そして、具象名詞「召使い、木戸番」から使役動詞の文法機能が発展したと考えられる。即ち、古代中国語の“畀”と“俾”は同じ使役動詞の文法機能を持っているが、最初は無関係な二つの単語であろうと思われる。

“俾”の音韻面について『説文解字注・人部』には次のようにある。

俾，从人，卑聲。

[“俾”の意味は“人”と関係があり、“卑”と発音が似ている。]

段玉裁の注釈によると、“俾”の読み方は“并弥切”である。つまり、“俾”の読み方は“并”の声母と、“弥”の韻母および声調とを組み合わせたものである。

使役動詞“畀”と“俾”の例文は以下のように示す。

(5) 王崩，周人将畀 虢公 政。（《左传・隱公三年》）

畀 +NP +VP

[周平王の死後、周の王室は虢公に政治を司らせようとしている。]



(6) 义之不图，俾 君子 怠。（《史记・三王世家》）

俾 +NP +VP

〔良いことをしようとしなければ、君子を失望させる。〕

例文 (5) と (6) に示すように、“畀/俾”は使役動詞とし、後に目的語が付き、その目的語は主語に使役される、或いは委託される人である。その目的語の後にもう一つの動詞が付き、それは主語が目的語に行わせる動作を表す。

戴志偉 (1987) によると、古代中国語の“畀”と“俾”の使用範囲は明確に分かれている。現代広東語で、『廣州方言字字典』では「『与える』という意味を持つ動詞とする時に、“畀”を使う。使役動詞、受身標識、道具標識とする時に、“畀”と“俾”は両方とも使える。」<sup>[3]</sup>としているが、実際に考察すると、両者の使用範囲は明確ではないことがわかる。

先行研究で述べた通り、近年広東語の辞書はいくつか出版されているが、方言の一種とする広東語は方言文字の使用について公式に発行される規範がない。つまり、現代広東語の話し言葉を表記する時に、発音を記録しながら、ランダムに、或いは書き手の個人的な習慣に従って文字を選ぶことが多い。即ち、日常生活で、語義と文法機能にかかわらず、“畀”と“俾”は常に混用され、両者は互いに置き換えることが可能である。多くの場合、書き手は個人的な習慣に従って両者のうちのの一つを選び、それだけを使う。例えば、「香港粵語語料庫」で、文字“畀”は使わず、“俾”のみを使う。一方、「廣州話口語有声語料庫」で、文字“俾”は使わず、“畀”のみを使う。

そのため、現代広東語の“畀”を分析する場合、“畀”と“俾”両方のテキスト使用例を考察する。

## 2. “畀”の近現代の文法機能と文法構造

“畀”の本義、及び基本義は「与える」という意味を持つ動詞である。例文を以下の通り示す。

(7) 姐你唔好将花又畀 别家人。（木魚書・《二荷花史・卷二・聆音问答》）

畀 +NP

〔お姉さん、他の人に花をあげないでください。〕

(8) 畀 一斤白菜嚟呀！（映画・《十月芥菜》，1952）

畀 +NP

〔キャベツを一斤ください。〕

(9) 畀啲 贴士 人啲呀！（映画・《細路祥》，1950）

畀 +NP1 +NP2

〔彼にヒントを与えなさい。〕

<sup>[3]</sup> 歐陽覺亞，周無忌，饒秉才（編著）2018. 《廣州方言字字典》：6-7 頁。香港：商務印書館（香港）有限公司。

(10) 呢啲係畀 自己 一条退路啊。(ラジオ番組・《拉阔车厢》，2010年4月15日)

畀 +NP1 +NP2

[これは自分のために逃げ道を残したのですよね。]

例文(7)、(8)と(9)に示すように、古代中国語の“畀”と同じく、現代広東語の“畀”も「与える」という意味を持ち、後に目的語が付く。例文(7)の目的語は物が与えられる人を表し、例文(8)の目的語は動作「与える」の向けられる対象である物を表す。そして、例文(9)の“畀”の後には二重目的語が付いている。“畀”により近いのは動作が向けられる物であり、直接目的語と呼ばれ、より遠いのは物が与えられる人であり、間接目的語と呼ばれる。

“畀”の二重目的語の構文で、例文(10)のように「畀+NP 間接+NP 直接」の文法構造を持っているものも見られるが、中国語の標準語である普通話における二重目的語の構文が「畀+NP 間接+NP 直接」の文法構造を持っているため、広東語“畀”の二重目的語の「畀+NP 間接+NP 直接」の文法構造は普通話の影響によるものであると考えられる。一方、例文(9)のような「畀+NP 直接+NP 間接」の文法構造を持っているものが土着のものであると思われる。

“畀”の文法機能について、いくつかの説がある。それらの説を踏まえ、本論文では“畀”の文法機能を以下のように分類する。

“畀”の一つ目の文法機能は与格標識(Dative Marker)である。与格標識とは、間接目的語を提起するマーカーである。例文は以下のように示す。

(11) 我一向都唔送 相 畀 人啲。(映画・《癡兒女》，1943)

VP+NP1+畀+NP2

[他人に写真を送ることはありません。]

(12) 呢隻鞋可以交 畀 我呀嘛?(映画・《紅菱血(下)》，1951)

VP +畀 +NP

[この靴を私にくれませんか。]

例文(11)に見られるように、与格標識“畀”の前には動詞と動詞の直接目的語、即ち動作が向けられる物があり、“畀”の後には動詞の間接目的語が付き、物が与えられる人或いは行為が与える影響の受容者を表す。そして、例文(12)に示すように、動詞の直接目的語を前に置く、或いは省略することができる。

Chin(2011)は与格標識とは別に受益者標識(Beneficiary Marker)が“畀”の文法機能の一つだと指摘したが、本論文は受益者標識を“畀”の文法機能として分類することに対して異論がある。

(13) 我想送 \_\_\_\_\_ 隻戒指 畀 你啫。(映画・《小婦人》，1957)

VP (+GIVE) +NP1 +畀 +NP2

[私はあなたに指輪を送りたいだけです。]

(14) 埋去斟 \_\_\_\_\_ 茶 畀 大少呀大少奶啦!(映画・《好女十八嫁》，1954)

VP (-GIVE) +NP1+畀 +NP2

[若旦那様と若奥様にお茶を注いでくれ。]

(15) 呢个有冇统计部门可以统计 一条嘅嘅数 畀 我哋呢你话? (ラジオ番組・《拉阔车厢》, 2010年4月14日)

VP (-GIVE) +NP1 +畀 +NP2

[私たちのためにデータを数えることができる統計部門があると思いますか。]

例えば、例文(13)、(14)、(15)において、“畀”を含む下線部の文法構造を見ればいずれも「VP+NP1+畀+NP2」である。しかし、Chin(2011)の解釈に基づけば、例文(13)に現れる“送”(訳文:送る)のように「与える」という意味を持つ動詞の場合は“畀”の文法機能は与格標識となる。こうした動詞はほかには例えば“交”(訳文:渡す)、“寄”(訳文:郵送する)、“借”(訳文:借りる)などがある。一方、例文(14)と(15)のように、この「VP」が「与える」という意味を持たない動詞の場合は“畀”の文法機能は受益者標識となる。

しかし、動詞の「VP」が「与える」という意味を持つか持たないかにかかわらず、一般に動詞の直接目的語の「NP1」が主語から間接目的語の「NP2」に移る点では同じである。

例文(13)について見れば、行為の“送”(訳文:送る)が行われる前の、動詞の直接目的語の“戒指”(訳文:指輪)の所有者は“我”(訳文:私)である。もし、行為の“送”(訳文:送る)が行われれば、“戒指”(訳文:指輪)の所有者は間接目的語“你”(訳文:あなた)になる。

次に、例文(14)は命令文なので、動詞“斟”(訳文:注ぐ)の主語は話者の相手、第二人称の“你”(訳文:あなた)であり、常に省略される。動詞“斟”(訳文:注ぐ)が「与える」という意味を持たないが、“斟茶畀大少呀大少奶”(訳文:若旦那様と若奥様にお茶を注ぐ)という過程で、動詞の直接目的語の“茶”(訳文:お茶)は主語の“你”(訳文:あなた)の手で間接目的語の“大少呀大少奶”(訳文:若旦那様と若奥様)に与えたものである。

さらに、例文(15)について見れば、動詞の直接目的語の“数”(訳文:データ)は形をもたないが、内容をもつ情報である。“統計部門統計一條嘅嘅數畀我哋”(訳文:統計部門が私たちのためにデータを数える)という状況では、直接目的語の“数”(訳文:データ)は主語の“統計部門”(訳文:統計部門)が間接目的語の“我哋”(訳文:私たち)に伝えるのである。もしデータのような情報を無形の物と見なせば、例文(15)に主語の“統計部門”(訳文:統計部門)が間接目的語の“我哋”(訳文:私たち)に直接目的語の“数”(訳文:データ)を与えるのである。

要するに、文法構造の「VP+NP1+畀+NP2」で、動詞「VP」が「与える」という意味を持たない動詞でも、動詞の直接目的語の「NP1」は主語から間接目的語に移動する。「NP1」が情報などの抽象的なものである場合でも、主語が間接目的語に伝えるという点で移動が伴う。これについては与格標識も受益者標識も同じであるため、特に分けることはしないのが適切であると本論文では考える。

“畀”の二つ目の文法機能は使役動詞(Causative Marker)であり、「許可する」という意味である。例文を以下の通り示す。なお、例文(19')のように、出典の記載がないものは広東語母語話者の筆者による作例である(これ以降も同様)。

(16) 畀 我 抱下個細路哥先! (映画・《女生外向》, 1965)

畀 +NP +VP

[まず、私に子どもを抱かせてください。]

(17) 防我小生駝累佢，唔俾 南窗习业勤。(木魚書・《石出香蓮記・卷五・万庭餞飲》)

俾 +VP

[ (彼は) 私に引きずり込まれないように、南の窓辺で勉強させてくれない。]

(18) 唔畀 笑。(ラジオ番組・《飛揚校園》，2010年4月9日)

畀 +VP

[笑わないでください。]

(19) 不如唔畀 买车。(ラジオ番組・《拉闊車廂》，2010年4月14日)

畀 +VP

[車の購入を許可しない方が良いです。]

(19') 不如唔畀 人 买车。

畀 +NP +VP

[車の購入を許可しない方が良いです。]

例文(16)に見られるように、使役動詞の“畀”の後に目的語が付き、その目的語は主語によって行為を許可される人を表す。目的語の後にもう一つの動詞が付き、それは主語が目的語に許可する行為を表す。すなわち、目的語「NP」は使役動詞“畀”の目的語であり、許可される行為「VP」の主体である。

例文(17)、(18)、(19)は目的語「NP」が省略される場合である。使役動詞の“畀”の直後に許可される行為「VP」が付く。

例文(17)で、使役動詞の構文「俾+VP」の前に行為を許可される人“我”(訳文:私)が出るので、必要のない重複を避けるために、“俾”の後に目的語を省略する。

さらに、例文(18)は命令文であるため、話者の相手は行為を許可される人「NP」である。「NP」は自明であるため、省略することができる。

また、例文(19)で、行為を許可される人が不特定の場合、「NP」を省略することができる。例文(19')に示すように、目的語「NP」が省略されない場合、「NP」の部分は“人”になることができる。

“畀”の三つ目の文法機能は受身標識(Passive Marker)である。例文を以下の通り示す。

(20) 大嫂明明係畀 人 謀殺死嘅。(映画・《奸情》，1958)

畀 +NP +VP

[兄嫁は明らかにある人に殺されたのに……]

(21) 因甚他小小孩子，初开训蒙，才俾 一拜，便受不起了？(木魚書・《背解紅羅・卷六・經文上学》)

俾 +VP

[彼は小さな子どもで、ただ読み書きができたのだが、なぜ(私は彼に)一回叩頭されただけで我慢できないのか。]

受身標識“畀”の文法構造は使役動詞“畀”の文法構造と同じく、「畀+NP+VP」である。例文(20)に示すように、“畀”の後に行為の主体「NP」が付き、その後に行為「VP」が

付く。受身構文の主語は行為「VP」の実際の客体である。

例文(21)は行為の主体「NP」が省略される場合である。受身構文「俾+VP」の前に行為の主体“他”(訳文:彼)が出るので、受身構文で「NP」を重複しない。なお、現代広東語では、“畀”の受身構文は「畀+NP+VP」のみであり、「NP」を省略することはできない。例文(21)は韻文の木魚書から取ったものである。作者がリズムをよく考え、四文字の短句を作るために、文法を厳しく守らず、「NP」を省略した可能性が高いと考えられる。

“畀”の四つ目の文法機能は道具標識(Instrument Marker)であり、“用”、“以”と類似の機能を持つ。例文を以下の通り示す。

(22) 我俾 呢塊布 嚟做衫。(広東語教科書・*Easy Phrases in the Canton Dialect of the Chinese Language (2nd Edition)*: 第七十課第五, 1877)

俾 +NP +VP  
[私はこの布で服を作ります。]

(22') 我俾 呢塊布 做衫。

俾 +NP +VP  
[私はこの布で服を作ります。]

(23) 日夜畀来 偷拜忏。(木魚書・《二荷花史・卷三・差鬢探问》)

畀 +VP  
[毎日(この絵を通して)こっそりとお嬢さんを礼拝する。]

道具標識“畀”の文法構造は使役動詞“畀”の文法構造と受身標識“畀”の文法構造と同じく、「畀+NP+VP」である。例文(22)に見られるように、道具標識“俾”は動詞句“做衫”(訳文:服を作る)の材料“呢塊布”(訳文:この布)を提起し、「俾+NP」が動詞句「VP」を行う手段を表す。行為「VP」を行う道具や材料などを道具標識の後の「NP」とすることが可能である。

さらに、ここでは“嚟/来”の使用にも触れている。“嚟/来”の文法構造は「PP+NP+嚟/来+VP」である。例文(22')に見られるように、“嚟”がなくとも例文の意味が変わらないが、“嚟”があれば、その前の「PP+NP」が手段であり、その後の「VP」が目的であることが明確である。

例文(23)は道具「NP」が省略される場合であり、文法構造は「畀+来+VP」である。前文で行為“拜忏”(訳文:礼拝する)を行う道具“丹青”(訳文:絵)が出るので、道具標識の構文で道具「NP」が省略される。しかし、現代広東語で、道具「NP」が省略される構造「畀+嚟/来+VP」は常用しない。

最後は疑問詞“畀做/俾做”である。この用法は先行研究で論じられていないものである。文例を分析する際に、最初に想定した四つの文法機能に従って分析できないものがある。任百强(2010)の『玉蔡宝扇』の注釈<sup>[4]</sup>を参考とし、その一部の文例にある“畀做/俾做”を疑問詞と見なす。例文を以下の通り示す。

(24) 畀做你姑嫂二人去那咁久?(木魚書・《玉蔡宝扇・下卷》)

[なぜご二人の義理の姉妹はそんなに長い間そこにいたのですか。]

[4] 任百强 2010. 《广东木鱼说唱史研究》: 434 页。香港: 中国评论学术出版社。

(25) 衡阳消息俾做何如? (粵謳・《潇湘雁》, 1828)

[衡陽の状況はどうですか。]

(25') 衡阳消息何如?

[衡陽の状況はどうですか。]

(26) 俾做他们有甚能? (木魚書・《后续背解红罗・卷五・方彪拜师》)

[彼らは何ができますか。]

(26') 他们有甚能?

[彼らは何ができますか。]

例文 (24) に示すように、“畀做”は「なぜ」という意味を持つ疑問代名詞であるが、例文 (25) と (26) においては、“俾做”は他の文法機能を持っている可能性があると考えられる。なぜならば、例文 (25') と (26') に見られるように、“俾做”がなくとも疑問文の意味が分かるからである。しかも、“畀做/俾做”の用例は木魚書と粵謳でのみ確認され、現在の広東語であまり用例を見ない。

## 二、“畀”の文法構造と文法化

第一章第1節で述べたように、“畀”の本義は「与える」という意味を持つ動詞である。即ち、“畀”の各種の文法機能は動詞“畀”から発展したものである。Chin (2011) は動詞“畀”から間接目的語の標識、受益者標識、使役動詞が直接に展開され、使役動詞から受身標識と道具標識が展開されたという文法化の過程を論じた。一方、林晓玲 (2014) は動詞“畀”から道具標識、与格標識、使役動詞が発展し、使役動詞から受身標識が発展したという文法化の過程を述べた。本論文ではそれらの研究を踏まえ、各機能の文法構造を分析し、“畀”の文法化の過程は図2-1のように示す。

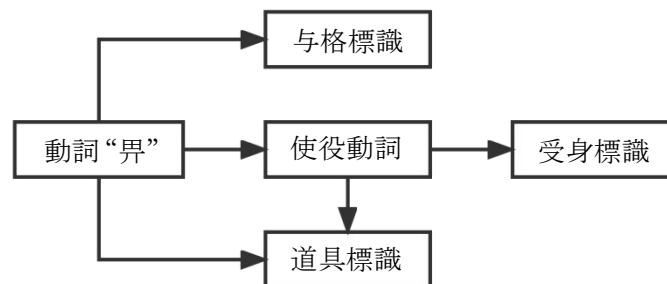


図2-1 “畀”の文法化の過程

古代中国語の文言資料からは、与格標識と使役動詞の文法機能が先に発展したことが見られるが、近現代広東語の通時的資料からは文法化の過程を実証的に示す証拠が不十分であるため、以下、本論文では共時的事実に基づく推測を交えて考察する。<sup>[5]</sup>

<sup>[5]</sup>近現代広東語の通時的資料における“畀”の各文法機能の文例数は付録2にコーパス別に掲げてある。

## 1. 動詞“畀”から与格標識

Chin (2011) も林晓玲 (2014) も“畀”の与格標識の文法機能が動詞“畀”から発展したということで一致する。Chin (2011) は「間接目的語の標識」と書いたが、「間接目的語の標識」も与格標識も機能的に同じものである。

与格標識“畀”の文法構造「VP (+NP1) +畀+NP2」を分析する。例文は以下の通り示す。

(27) 送 枝筆 畀 你。(映画・《同撈同煲》, 1956)

VP +NP1 +畀+NP2

[あなたにペンを送ります。]

(27') 送枝筆。枝筆畀 你。

畀 +NP

[ペンを送ります。このペンはあなたにあげます。]

例文 (27) に見られるように、与格標識“畀”の前に動詞“送” (訳文: 送る) と動詞の直接目的語“枝筆” (訳文: ペン) があり、“畀”の後に動詞の間接目的語“你” (訳文: あなた) が付く。

最も簡単な SV0 文を作るために、例文 (27') に示すように、行為“送枝筆畀你”を“送枝筆”と“枝筆畀你”に分ける。“送枝筆”で、動詞“送” (訳文: 送る) と動詞の直接目的語“枝筆” (訳文: ペン) の成分は変わらない。一方、“枝筆畀你”は例文 (27) の直接目的語、与格標識と間接目的語を組み合わせた、新しい単文である。“枝筆畀你”で、“枝筆” (訳文: ペン) は主語になり、“畀” (訳文: あげる) は動詞及び述語、“你” (訳文: あなた) は目的語になる。第 1 の文の中の目的語であった“枝筆” (訳文: ペン) はここでは主題化され主語となっている。

例文 (27') は文法的に言えるが、“枝筆” (訳文: ペン) の繰り返しが話を煩雑にする。言語の経済性の原理によれば、繰り返しの話は省略されやすく、二文が一文に短縮され、“送枝筆畀你”になる。例文 (27') の“枝筆畀你”の“畀”は動詞であるが、“送枝筆畀你”になった後、実際の目的語“枝筆”と“畀你”の間の関係と比べ、動詞“送”と“枝筆”の間の関係がより緊密であるため、“畀”が動詞ではなくなり、与格標識になった。

(28) 我嚟交 啲租 畀 你。(映画・《人面桃花相映紅》, 1956)

VP +NP1 +畀 +NP2

[私はあなたに家賃を払います。]

(29) 噉突然間呢, May Wing 就打 電話 俾 我嘞。(録音・TN-038, 1997 年 8 月 14 日)

VP +NP1 +俾 +NP2

[突然、メイ・ウィングさんから電話がかかってきた。]

(30) 可能個老婆有份工介紹 俾 佢。(録音・TN-R002, 1998 年 2 月 20 日)

VP +俾 +NP

[もしかしたら、奥さんが彼に紹介する仕事があるのかもしれない。]

例文 (27) と (28) で、直接目的語は具体的な物であり、与格標識“畀”にも明確な「与える」という意味が残っている。しかし、例文 (29) で、直接目的語“電話”は具体的な物であるが、その“電話”を間接目的語“我”（訳文：私）に与えるという意味ではなく、間接目的語“我”（訳文：私）に電話をかけるという意味である。例文 (29) と (30) の与格標識“畀/俾”はさらに文法化し、「与える」という意味が薄れ、間接目的語を提起するマーカーとしてのみ使用される。

前述したように、“畀”の与格標識の文法機能は「与える」という意味の動詞から発展したものであるが、姚玉敏 (2010) も述べるように、動詞“畀”の二重目的語の文法構造は与格標識の文法構造から発展したものである。

(31) 畀 張紙 畀 我呀! (映画・《亞福對錯馬票》，1960)

VP+NP1 +畀+NP2  
[私に紙をください。]

(31') 畀 張紙 我呀!

畀 +NP1 +NP2  
[私に紙をください。]

例文 (31) に示すように、与格標識“畀”の構文で、「VP」も“畀”であり、“畀”が重複する。この場合、与格標識“畀”は、例文 (31') に見られるように、脱落しやすい。与格標識“畀”はなくなり、与格標識“畀”の構文「VP+NP1+畀+NP2」は短縮され、動詞“畀”の二重目的語の構文「畀+NP1+NP2」になる。

## 2. 動詞“畀”から使役動詞、使役動詞から受身標識

Chin (2011) は動詞“畀”から使役動詞が発展し、そして、同様な文法構造「畀+NP+VP」を持っているため、使役動詞から受身標識が発展したという文法化の過程を述べた。林晓玲 (2014) は動詞“畀”の兼語式構文「畀+NP1+NP2+VP」と与格標識“畀”の兼語式構文「VP1+NP1+畀+NP2+VP2」が“畀”の使役動詞の文法機能を生み出したと述べる。

動詞“畀”の二重目的語の後に動詞が付けば、兼語式の構文になる。例文は以下の通り示す。

(32) 而家我畀 樽藥丸 佢食。(映画・《大廈情殺案》，1959)

畀 +NP1 +NP2  
[さて、私は彼に薬一本をあげて、飲ませます。]

(33) 畀 杯水 佢飲呀! (映画・《人頭奇案》，1955)

畀 +NP1 +NP2  
[水一杯を彼に飲ませてあげてください。]

(34) 你畀 個機會 我解釋得㗎! (映画・《難得有情郎》，1962)

畀 +NP1 +NP2  
[説明する機会を与えてください。]



(34') 你畀 我 解釋得㗎!

畀 +NP +VP

[説明させてください。]

例文 (32) に見られるように、動詞“畀”の後に直接目的語“樽藥丸”（訳文：薬一本）と間接目的語“佢”（訳文：彼）が付き、その後にもう一つの動詞“食”（訳文：飲む）が付く。そして、動詞“食”（訳文：飲む）の表す行為の主体は間接目的語“佢”（訳文：彼）である。このような構文は兼語式と呼ばれる。

例文 (32) (33) のように、直接目的語が具体名詞であるものがあるが、例文 (34) に示すように、直接目的語が抽象名詞であるものもある。この場合、主語は間接目的語に具体的な物を渡すという意味ではなく、間接目的語に許可を与える、即ち、ある行為を許可するという意味である。そして、例文 (34') に見られるように、間接目的語「NP1」が脱落すると、兼語式の動詞“畀”の構文「畀+NP1+NP2+VP」が使役動詞“畀”の構文「畀+NP+VP」になる。その意味は、主語“你”（訳文：あなた）の許可の下で、目的語“我”（訳文：私）は行為“解釋”（訳文：解釈）をすることである。

また、使役動詞“畀”の文法構造と同じく、受身標識“畀”の文法構造も「畀+NP+VP」であり、“畀”の受身標識の文法機能が“畀”の使役動詞の文法機能から発展したものであると考えられる。例文は以下の通り示す。

(35) 你畀 我 睇下呀信啦。（映画・《為情顛倒》，1952）

畀 +NP +VP

[その手紙を私に見せてください。]

(36) 衆人聽聞耶穌復生，俾 呢個女人 睇見。（聖書広東語訳・*The Gospel according to St. Mark in English and Cantonese*: 第十六章第十一節，1899）

俾 +NP +VP

[人々はイエスが復活し、この女の人に見られたと聞いた。]

(37) 《X-File》女主角而家個妹究竟點解俾 人 捉走咗？（録音・TN-R011，1998年2月27日）

俾 +NP +VP

[『X-ファイル』のヒロインの今の妹は一体なぜ人に連れ去られたのでしょうか？]

“畀”の使役動詞と受身標識の文法構造は同じであるため、文法構造だけを見るとどちらの機能を果たしているのか曖昧なところもある。その場合は文脈を考慮し、主語の意志が行為に与える影響の有無により“畀”の文法機能を判断する。

例文 (35) と (36) で、両方の文法構造も「畀+NP+VP」であり、動詞「VP」も“睇”（訳文：見る）であるが、前者は使役構文であり、後者は受身構文である。例文 (35) で、「NP」の“我”（訳文：私）は主語の“你”（訳文：あなた）の許可の下で、行為“睇”（訳文：見る）を行う。一方、例文 (36) で、「NP」の“呢個女人”（訳文：この女の人）は誰の能動的な意志にも従わず、受動的にイエスの復活を見たのである。

例文 (37) に見られるように、受身構文で三要素の主体“人”（訳文：人）、動詞“捉走”（訳文：連れ去る）、客体“女主角而家個妹”（訳文：ヒロインの今の妹）があるが、

客体“女主角而家個妹”（訳文：ヒロインの今の妹）は主語であり、動詞“捉走”（訳文：連れ去る）は客体の能動的な意志による行為ではない。

石毓智（2011）によると、様々な言語において、使役動詞から発展した受身標識は少なくない。例えば、英語の使役動詞「make」と普通話の使役動詞“讓”及び“叫”は受身標識の文法機能を持っており、広東語の“畀”もここに含まれる。ただし、中国語（普通話や広東語）の使役動詞から発展した受身標識の例は、“使”、“令”などの使役動詞とは微妙な違いがある。“使”、“令”などの使役動詞はより強い支配力を持っている一方、広東語の“畀”は「許可する」という意味を持っている。つまり、“畀”の使役構文では、行為「VP」をするのは、目的語「NP」の意志に基づくことである。主語の「許可する」という意志も不可欠であるが、行為「VP」に対してはより客観的な条件である。

### 3. 道具標識までの文法化

道具標識“畀”の文法構造は、使役動詞“畀”及び受身標識“畀”の文法構造と同じ、「畀+NP+VP」である。

先行研究によると、Chin（2011）は“畀”の道具標識の文法機能が使役動詞から発展したものであると論じたが、林晓玲（2014）は“畀”の道具標識の文法機能が「与える」という意味を持つ動詞から発展したものであると述べた。本論文は数多の文例を考察し、“畀”の道具標識の文法機能の一部は動詞から、一部は使役動詞から発展したものであると考える。

“畀”の道具標識の文例を分析すると、「VP」を省略できるかどうかで二種類に分けることができる。1つは「VP」を省略しても意味が分かるもので、“畀”の道具標識の文法機能が「与える」という意味を持つ動詞から発展したと思われるものであり、もう1つは「VP」を省略すれば意味が不明になるもので、“畀”の道具標識の文法機能が使役動詞から発展したと思われるものである。

まず、「VP」を省略しても意味が分かる例文は以下のように示す。

(38) 就豆……提前浸，噉呢就畀 啲蒜子啊啲啲啊，就爆香啲啲排骨啊啲啲……（ラジオ番組・《招积叹世界》，2010年4月4日）

畀 +NP +VP

[事前に豆を浸して……で、そうしたら、にんにくとかを加えて、スペアリブとかを炒めて……]

(39) 噉你要畀 心機 讀書！（映画・《金蘭姊妹》，1954）

畀 +NP +VP

[いいかい、しっかり勉強するんだよ。]

(40) 内环路嘅火车站 A 线出口位置呢，请你畀 些少耐性 等一等喇。（ラジオ番組・《拉阔车厢》，2010年4月14日）

畀 +NP +VP

[内環状道路の駅の A 出口のあたりで、気長にお待ちください。]

例文 (38)、(39) と (40) に見られるように、「VP」がない場合、「畀+NP」の“畀啲蒜子”（訳文：にんにくを入れる），“畀心機”（訳文：頑張る），“畀些少耐性”（訳

文：我慢する)も意味を持っている。

特に、例文(38)に示すように、「昇+NP」の“昇啲蒜子”(訳文：にんにくを入れる)と「VP」の“爆香啲排骨”(訳文：スペアリブを炒める)の間に接続詞“就”があり、両者が緩やかに繋がっている。「昇+NP」が比較的独立しているので、もし“昇”も動詞と考えれば、この「昇+NP+VP」の文法構造は二つの動詞があり、即ち、連動式と見なすことができる。また、例文(38)の「NP」は具体的な物“蒜子”(訳文：にんにく)であり、行為“昇啲蒜子”(訳文：にんにくを入れる)は、既に手に持っていた物のあるところ、例えば、鍋に入れることを指し、この“昇”には「与える」という意味が込められている。

“就”などの文の成分が脱落し、発話の流れの中で区切れが少なくなるにつれて、「昇+NP」と「VP」の繋がりが緊密になり、道具標識の文法構造「昇+NP+VP」になった。その同時、動詞“昇”から道具標識の文法機能が発展した。

さらに、例文(39)と(40)の「NP」はより抽象的な物であり、“昇”に「与える」という意味が薄れ、文法化の度合いがより深い。例文(39)の“昇心機”(訳文：頑張る)は現代広東語における固定フレーズの一つであり、現在でも常用される。

一方、「VP」を省略すれば意味が不明になるタイプについては、例文を以下の通り示す。

- (41) 玉帶不須身上挂，脱下朝衣俾 火 焚。(木魚書・《金叶菊・卷三・骂夫卖桂》)  
俾 +NP +VP

[ベルトを外し、朝服を脱いで、火で燃やします。]

- (42) 耶穌喺個處，唔做得乜嘢奇能，不過俾 手 摩吓幾個病人，醫好佢哋。(聖書  
広東語訳・*The Gospel according to St. Mark in English and Cantonese*: 第六章第五節, 1899)  
俾 +NP +VP

[イエスはそこで奇跡的なことを起こしませんでした。手で数人の患者を撫でるだけで、彼らを癒しました。]

- (43) 你聽朝早早啲起身昇 啲水 淋啲花呀!(映画・《失匙夾萬》，1956)  
昇 +NP +VP

[明日の朝、早く起きて花に水をやってください。]

例文(41)、(42)、(43)の「NP」の“火”(訳文：火)、“手”(訳文：手)と“水”(訳文：水)は例文(38)の「NP」の“蒜子”(訳文：にんにく)と同じ、具体的な物であるが、“蒜子”(訳文：にんにく)のように元の持ち主から分離したり、或いは移動したりすることはできない。これらの“昇/俾”の意味は「与える」という意味より、「駆使する」という意味のほうが近い。

また、例文(41)、(42)、(43)は「昇/俾+NP」だけでは、すなわち“俾火”(訳文：火で……)、“俾手”(訳文：手で……)、“昇水”(訳文：水で……)だけでは意味が不完全である。つまり、道具標識の文法構造「昇+NP+VP」の内部は繋がりが強い。

使役動詞“昇”の文法構造「昇+NP+VP」の「NP」は一般に人などの主体性を持っている、即ち、自分の意志判断によって行動するものである。第二章第2節に説明した通り、使役構文の「VP」は「NP」の意志に基づいて行われる動作であり、「VP」の主体も「NP」である。その一方、道具標識“昇”の文法構造「昇+NP+VP」の「NP」は一般に人ではなく、主体性を持っていないものである。道具標識の構文で、行為「VP」をするのは主語の意志に

基づき、「NP」の使用を通じ、主語が行動することである。つまり、「NP」は行為「VP」をするための客観的な条件を作る。「NP」が主観的な条件から客観的な条件への変化に伴い、使役動詞“冝”から道具標識の文法機能が発展した。

また、“冝”の道具標識の文法機能は現代においては衰退しているが、動詞から発展した道具標識“冝”と使役動詞から発展した道具標識“冝”の間には衰退する程度に違いがあると思われる。それについての内容は第三章に詳述する。

### 三、道具標識“冝”の衰退

#### 1. 通時的分析から見る“冝”の衰退

先行研究のChin (2011) と林晓玲 (2014) は現代広東語における“冝”の道具標識の文法機能が衰退している現象に言及した。Chin (2011) によると、固定フレーズ“冝心機”（訳文：頑張る）を使用する場合と調理の仕方を説明し、ある調味料を加えることを表す場合のみ、道具標識“冝”が使用される。しかし、それ以上の詳細な論述がない。

そこで、本論文は各時期の道具標識“冝”の文例を比較し、“冝”の道具標識の文法機能の衰退を検討する。

まず、道具標識“冝”の文法機能の衰退は主に、“冝”の後に付く「NP」の範囲の狭まりを反映する。早期の広東語における“冝”の道具標識の文法構造「冝+NP+VP」では、“冝”の後に付く「NP」は制限がほぼない。具体的な物から抽象的な概念まで、あらゆるものが「NP」として使用可能である。例文は以下の通り示す。

(44) 不过俾 个死尸 来顶佢, 想好明朝话佢亡。(木魚書・《金丝蝴蝶・卷三・财买人心》)

俾 +NP +VP

[彼を死体で置き換え、朝には死んだと言うつもりだった。]

(45) 俾 石共泥, 整一條路。(広東語教科書・*How to Speak Cantonese (4th Edition)*: 會話四十一第二十, 1912)

俾 +NP +VP

[石と泥を使って道を作る。]

(46) 解除灯带共鹅肠, 尽行俾 火 来焚化。(木魚書・《金叶菊・卷二・玉仙招赘》)

俾 +NP +VP

[粗布を解き、火ですべて燃やす。]

(47) 呢件衫要先俾 熱水 洗過至俾凍水漂。(広東語教科書・*Progressive and Idiomatic Sentences in Cantonese Colloquial*: 第四十四課第二部分第六, 1931)

俾 +NP +VP

[この衣服はお湯で洗った後、水洗いしてください。]

(42) 耶穌喺個處，唔做得乜嘢奇能、不過俾 手 摩吓幾個病人、醫好佢哋嘍。（聖書  
広東語訳・*The Gospel according to St. Mark in English and Cantonese*: 第六章第五節, 1899）

俾 +NP +VP

〔イエスはそこで奇跡的なことを起こしませんでした、手で数人の患者を撫でるだけで、彼らを癒しました。〕

(48) 昇 心 及早勤书业，望取功名夺占魁。（木魚書・《石出香莲记・卷三・江陈忆子》）

昇 +NP +VP

〔一生懸命勉強しましょう。あなたが科挙に及第することを待ち望みます。〕

例文(44)、(45)、(46)と(47)に見られるように、「NP」は具体的な物であり、何かを作るための材料、或いは何かを達成するための手段を表す。

そして、例文(42)と(48)の「NP」も具体的な物であるが、より正確に言うと、主語とする人の一部である。例文(42)に示すように、主語の“耶穌”（訳文：イエス）は手で数人の患者を撫でるということを行い、“俾手”（訳文：手で……）ということは行為“摩吓幾個病人”（訳文：数人の患者を撫でる）をするための仕方であるともいえる。

例文(48)の「NP」の“心”（訳文：心）は人の一部であり、“昇心”（訳文：心で……）の本義は人の心臓を通じ、何かをすることであるが、派生した意味はより抽象的な「一生懸命」という意味である。

また、「NP」が抽象的な概念である例文は以下の通り示す。

(49) 唔试你在我家来死对，俾 死 为头唬我身？（木魚書・《石出香莲记・卷一・骂女逐甥》）

俾 +NP +VP

〔私の家で（私に）立ち向かってみようか。私を殺すと脅かすのか。〕

(50) 昇的 者也之乎 埋住你，昇的弓刀大石等你越练越顽皮。（粵謳・《题时局图》，1900）

昇 +NP +VP

〔論理道徳であなたを埋めて、弓、段平と石で練習の過程であなたに疲れさせます。〕

例文(49)に示すように、「NP」は“死”（訳文：死亡）であり、その意味は、“死”（訳文：死亡）ということをおまににする、即ち、「殺す」と脅かすのである。そして、例文(50)で、「NP」の“者也之乎”の本義は文語でよく使われる四つの助詞であるが、派生した意味は現実の問題を解決しない論理道徳ということである。

20世紀中期以後、道具標識“昇”の文例が少なくなり、「NP」とする単語の豊かさも低下している。抽象的な概念を「NP」とする文例はほぼない。例文は以下の通り示す。

(43) 你聽朝早早啲起身昇 啲水 淋啲花呀！（映画・《失匙夾萬》，1956）

昇 +NP +VP

〔明日の朝、早く起きて花に水をやってください。〕

(51) 焗熟咗之後呢，佢就一兜鐵碟呢，就俾 啲牛油同埋哩個蠟燭 熨住嘅。（録音・TN-R007，1998年2月25日）

俾 +NP +VP  
〔焼いた後は鉄の皿に入れ、バターとろうそくで温めます。〕

(52) 將來呢啲啲裙帶風一吹吹起你嘅時候呢，你就要畀 隻眼尾 睇下細佬至好！（映画・《神秘的血案》，1966）

畀 +NP +VP  
〔将来、結婚しても、弟の面倒をちょっと見たほうがいいですよ。〕

例文(43)と(51)に示すように、早期広東語の道具標識“畀”の文例と同じ、「NP」は具体的な物であり、何かを実現するための手段を表す。そして、例文(52)で、「NP」の“眼尾”（訳文：眼の端）は人の一部であり、“畀隻眼尾睇下”の表向きは「ちらりと見る」という意味であるが、ここでは「面倒をちょっと見る」という意味もある。

(38) 就豆……提前浸，噉呢就畀 啲蒜子啊啲啲啊，就爆香啲啲排骨啊啲啲……（ラジオ番組・《招积叹世界》，2010年4月4日）

畀 +NP +VP  
〔事前に豆を浸して……で、そうしたら、にんにくとかを加えて、スペアリブとかを炒めて……〕

(53) 啲啲啲啲茶好似畀 海水 煲噉。（映画・《龍鳳合歡花》，1960）

畀 +NP +VP  
〔そのお茶は海水から作られているようですね。〕

また、例文(38)と(53)に示すように、調理するために、ある材料や調味料を加えることを表す場合、道具標識“畀”がよく使われる。

20世紀中期に、道具標識“畀”の文法機能について生じたと思われるもう一つの顕著な変化は固定フレーズの形成である。早期の広東語においては、道具標識“畀”を用いた固定フレーズというのは見られず、“畀”と「NP」との組み合わせはかなり自由であった。例えば、コーパスには“畀心”（訳文：心で……）という例があるが、これは20世紀中期に現れる固定フレーズ“畀心機”（訳文：頑張る）とは形が似ているが、固定フレーズではない。すなわち、“畀心”は「人の(内臓としての)心を用いて」という本義と「一生懸命に」という派生義の2つの意味を持つものであった。また、“畀心機”とは異なり、「VP」を伴わずに使用することができないものであった。20世紀に現れる固定フレーズ“畀心機”についての例文は以下の通り示す。

(39) 噉你要畀 心機 讀書噉！（映画・《金蘭姊妹》，1954）

畀 +NP +VP  
〔いいかい、しっかり勉強するんだよ。〕

(54) 畀 心機 湊大個仔仲好啦！（映画・《難為了嬌妻》，1966）

畀 +NP +VP  
〔子どもを大切に育てたほうがいいと思います。〕

“心機”とは心血、或いは精神力というものであり、“界心機”とは精神力を出す、即ち頑張るという意味である。「香港二十世紀中期粵語語料庫」に、道具標識“界”についての文例は38例があり、その中で29例は“界心機”についての文例である。使用頻度が高いため、固定フレーズが形成された。そして、固定フレーズのあることが道具標識“界”の文法機能の衰退を遅らせた。「香港粵語語料庫」と「広州話口語有声語料庫」には“界心機”についての文例が見られないが、歐陽覺珏、周無忌、饒秉才（2018）と張勵妍、潘礼美、倪列懷（2018）は固定フレーズ“界心機”を収録している。

それ以外に、第二章第3節には言及したように、動詞から発展した道具標識“界”と使役動詞から発展した道具標識“界”の間には衰退する程度に違いがあろうと考えられる。現代広東語で、両者の使用頻度も低下しているが、動詞から発展した道具標識“界”の使用がより多く残っている。

(39) 喺你要界 心機 讀書囉！（映画・《金蘭姊妹》，1954）

界 +NP +VP

〔いいかい、しっかり勉強するんだよ。〕

(39') 喺你要界 心機 囉！

界 +NP

〔いいかい、頑張ってください。〕

(40) 内环路嘅火车站 A 线出口位置呢，请你界 些少耐性 等一等喇。（ラジオ番組・《拉阔车厢》，2010年4月14日）

界 +NP +VP

〔内環状道路の駅の A 出口のあたりで、気長にお待ちください。〕

(40') ……请你界 些少耐性 喇。

界 +NP

〔しばらくお待ちください。〕

例文(39)と(40)に見られるように、動詞から発展した道具標識“界”の文法構造「界+NP+VP」では、「界+NP」が比較的に独立しており、明確な意味を持っている。例文(39')と(40')のように「VP」がない場合、「界+NP」のみの使用が可能である。この文法構造「界+NP」にある“界”は道具標識ではなく、動詞であるが、「界+NP」には、道具を提示する、或いは何かのやり方を示すという意味が残っている。

一方、使役動詞から発展した道具標識“界”は使用頻度がより低い。例文は以下の通り示す。

(41) 玉带不须身上挂，脱下朝衣俾 火 焚。（木魚書・《金叶菊・卷三・骂夫卖桂》）

俾 +NP+VP

〔ベルトを外し、朝服を脱いで、火で燃やします。〕

(42) 耶穌喺個處、唔做得乜嘢奇能、不過俾 手 摩吓幾個病人、醫好佢哋嘅。(聖書  
広東語訳・*The Gospel according to St. Mark in English and Cantonese*: 第六章第五節, 1899)

俾 +NP +VP

[イエスはそこで奇跡的なことを起こしませんでした、手で数人の患者を撫でるだけで、彼らを癒しました。]

(43) 你聽朝早早啲起身畀 啲水 淋啲花呀! (映画・《失匙夾萬》, 1956)

畀 +NP +VP

[明日の朝、早く起きて花に水をやってください。]

(43') 你聽朝早早啲起身用 啲洗米水 淋啲花呀!

用 +NP +VP

[明日の朝、早く起きて米のとき汁で花に水をやってください。]

使役動詞から発展した道具標識“畀”の例文(41)、(42)と(43)を見られるように、「畀+NP」の意味は「VP」の意味の中に含まれている。つまり、(41)について言えば物を燃やすとは火で燃やすことであり、(42)について言えば他人を撫でるとは手で撫でることであるのは自明の理である。意味の重複を避けるために、「畀+NP」を省略するのは可能である。即ち、道具標識“畀”を使わず、「VP」のみがあっても元の文と同じ意味を伝えることができる。

もし「NP」は一般のものではなく、例文(43')に示すように、「NP」を省略することができなければ、現在には道具標識“畀”を使うのは少なくなり、道具標識“用”はよりよく使われると思われる。

## 2. 道具標識“用”との比較

現代広東語では、道具標識には“畀”より、道具標識“用”のほうがよりよく使われるということが見られる。早期の広東語における道具標識“畀”の文法機能と比べ、道具標識“用”は基本的に同じの文法機能を持っている。例文は以下の通り示す。

(55) 用 全拼 嚟打就有喋喇。(ラジオ番組・《飞扬校园》, 2010年4月9日)

用 +NP +VP

[フルスペルで入力すればいいですよ。]

(56) 一间咁大规模嘅公司, 佢哋居然去做噃……一啲账目嘅时候呢, 全部係用手嚟到, 用 手 搵计算器嚟到嘅喔。(ラジオ番組・《零点冲动》, 2010年4月7日)

用 +NP +VP

[こんな大規模な会社では、決算をする時に全員が手で電卓を使うのは驚きですね。]



(57) 喺个鑊里边放啲粳米啦，喺大火烧滚之后呢，再用 一啲小火 烧到个米开花。  
(ラジオ番組・《招积叹世界》，2010年4月4日)

用 +NP +VP

[この鍋にうるち米を入れ、強火で沸騰させてから、弱火でお米がお粥になるまで炊く。]

(58) 有蝎子，同理有落啲苦瓜落去呀，落，同理用 羊骨架 嚟煲嘅。(ラジオ番組・《时尚东西》，2010年3月29日)

用 +NP +VP

[サソリ、それからゴーヤを入れて、骨付きラム肉も加えて調理するのです。]

(59) 我觉得个气氛可以用 几诡异 去形容嘍。(ラジオ番組・《由理话事》，2010年4月15日)

用 +NP +VP

[この雰囲気は「怪しい」と形容することができますね。]

例文(55)に見られるように、「NP」の“全拼”(訳文：フルスペル)は中国語の入力方式の一種であり、「用+NP」は行為「VP」の“打”(訳文：入力する)を行うための手段を表す。

さらに、例文(56)で、「NP」の“手”(訳文：手)は人の一部である。電卓を使うとは手で使うことであるのは自明であるが、ここでは、「より効率的な方法を使うのではなく、人力を使う」ということを強調するために、道具標識の文法構造を使う。例文(57)も同じ、物を燃やすとは火で燃やすことであるのは分かるが、「NP」の“火”(訳文：火)は一般の火ではなく、“一啲小火”(訳文：弱火)であり、省略することはできない。

そして、例文(58)に見られるように、調理場面で、ある材料や調味料を加えることを表す場合、道具標識“𠵼”がよく使われるが、道具標識“用”を使うのもできる。

早期の広東語における道具標識“𠵼”の文法構造「𠵼+NP+VP」で、抽象的な概念も「NP」とすることが可能であるが、現在では文例がほぼ見られない。しかし、例文(59)に見られるように、道具標識“用”の文法構造「用+NP+VP」であれば、抽象的な概念を「NP」とすることが可能である。

また、道具標識“用”の文法構造は、例文(55)、(58)、(59)に見られるように、しばしば“嚟/来”及び“去”が「NP」の後に付き、「用+NP+嚟/来/去+VP」になる。“嚟/来”や“去”の有無によって文の意味が変わることはないが、道具標識“用”についての文例の多くは“嚟/来”や“去”、特に“嚟”が付く。“嚟/来”や“去”があれば、「用+NP」と「VP」との繋がりにより緩くなり、道具標識“用”を動詞と見なすことも可能であり、この点で道具標識“𠵼”より文法化の程度が低いと見られる。

## 終わりに

本論文は広東語“𠵼”の諸機能の文法構造を検討し、“𠵼”の文法化の過程を明らかにした。“𠵼”は「与える」という意味を持つ動詞であるほか、「与格標識」、「使役動詞」、「受身標識」、「道具標識」及び疑問詞“𠵼做”という五つの文法機能を持っている。その中で、疑問詞“𠵼做”の用例は現在の広東語であまり見ないので、より詳細な説明はできず、疑問詞“𠵼做”以外の文法機能の文法化を検討した。文の意味を変えずにより単純

な文に分割し、文の成分の再分析を通じ、「与える」という意味を持つ動詞から“畀”の与格標識の文法機能が発展したということを明らかにした。そして、動詞“畀”の兼語式構文から使役動詞“畀”の文法構造が発展した。さらに、使役動詞“畀”と受身標識“畀”の文法構造も「畀+NP+VP」であり、「NP」と「VP」の関係を分析し、使役動詞から“畀”の受身標識の文法機能が発展したということを論じた。最後に、“畀”の道具標識の文法構造も「畀+NP+VP」であるが、「VP」を省略する場合、「畀+NP」の意味が分かるかどうかで道具標識“畀”を二種類に分ける。すなわち、「VP」を省略しても意味が分かるものは道具標識としての文法機能が「与える」という意味を持つ動詞から発展したものであり、「VP」を省略すれば意味が不明になるものは道具標識としての文法機能が使役動詞から発展したものであるということを論述した。

また、“畀”の諸機能のうち、道具標識を取り上げ、通時的分析を行い、他の道具標識と比較し、その衰退の現象を考察した。早期の広東語における“畀”の道具標識の文法構造「畀+NP+VP」で、具体的な物から抽象的な概念まで、あらゆるものを「NP」とすることが可能である。20世紀中期以降、“畀”の道具標識の文法機能は衰退していくが、固定フレーズ“畀心機”（訳文：頑張る）が形成されることで、道具標識の文法機能の衰退は遅らされている。それ以外に、動詞から発展した道具標識“畀”より、使役動詞から発展した道具標識“畀”の衰退のほうが深刻である。

本論文にはいくつかの問題が残されている。まず、疑問詞“畀做”については詳細に論述することができなかった。粵語の他の下位方言からその意味と文法機能を検討するのは今後の課題であると考えられる。そして、“畀”の文法化についての分析は共時的事実に基づいた推測を交えて文法化過程を構築し、より実証的な形で通時的分析をすることができなかった。通時的分析を通じ、“畀”の文法化の過程を検証するのを目指したい。また、現代広東語で道具標識として“畀”に取って代わった“用”を取り上げ“畀”との使用場面を比較したが、他の道具標識、例えば、“攞”などと比較することも今後の課題であると考えられる。特に、“攞”は現代広東語の方言語彙であり、動詞として「取る」、「もらう」という意味を持っているため、書面語ないし普通話との共通語彙である“用”よりも“畀”との共通点が多い。

## 参考文献

### 論文、雜誌記事

#### 中国語

- 储泽祥, 曹跃香 2005. 《固化的“用来”及其相关的句法格式》, 《世界汉语教学》第2期: 22-30页。
- 戴志伟 1987. 《界、俾》, 《广州研究》第3期: 6页。
- 郜元宝 2002. 《母语的陷落》, 《书屋》第4期: 4-11页。
- 李锦芳 1990. 《论壮侗语对粤语的影响》, 《贵州民族研究》第4期: 60-65页。
- 林晓玲 2014. 《广州话“界/俾”的语法化》, 《语文学刊》第23期: 24-26页。
- 田小琳 2021. 《三論香港地區的語言文字規範問題》, 《中國語文通訊》第1期: 1-13頁。
- 杨奔 2018. 《勾漏粤语与壮语被动句比较研究》, 《广西师范大学学报(哲学社会科学版)》第6期: 158-169页。
- 姚玉敏 2010. 《早期粵語中的〈界〉字句》, 《歷時演變與語言接觸—中國東南方言》第24期: 162-185頁。
- 詹伯慧 1999. 《粤语研究的回顾与展望》, 《暨南学报(哲学社会科学)》第6期: 11-21页。
- 詹伯慧 2008. 《粤语研究与粤语应用》, 《学术研究》第10期: 127-131页。
- 张全生 2011. 《从“来”的语法化看焦点结构与焦点标记的产生》, 《语言科学》第6期: 618-628页。

#### 英語

- Chin, Andy. 2011. Grammaticalization of the Cantonese Double Object Verb [pei (35)] 界 in Typological and Areal Perspectives. *Language and Linguistics* 12(3): 529-563.
- Light, Timothy. 1977. Clairetalk: A Cantonese-speaking child's confrontation with bilingualism. *Journal of Chinese Linguistics* 5(2): 261-275.
- Tang, Sze Wing. 1998. On the "Inverted" Double Object Construction. In Matthews Stephen J (ed.), *Studies in Cantonese Linguistics*. Hong Kong: Linguistic Society of Hong Kong. 35-52.
- Wong, May L Y. 2009. Gei constructions in Mandarin Chinese and bei constructions in Cantonese: A corpus-driven contrastive study. *International Journal of Corpus Linguistics* 14(1): 60-80.

### 著書

#### 中国語

- 陳雄根, 張錦少(編著) 2019. 《粵語詞匯溯源》。香港: 商務印書館(香港)有限公司。
- 程俊英, 蔣見元 1991. 《詩經注析》。北京: 中華書局。
- 程美寶 2018. 《地域文化與國家認同: 晚清以來“廣東文化”觀的形成》。香港: 三聯書店(香港)有限公司。

- 鄧思穎 2015. 《粵語語法講義》。香港：商務印書館(香港)有限公司。
- 东莞群众艺术馆(編) 2006. 《东莞木鱼书》。北京：大众文艺出版社。
- 东莞群众艺术馆(編) 2008. 《东莞木鱼书》。北京：大众文艺出版社。
- 广东省统计局(編) 2000. 《广东统计年鉴—2000》。北京：中国统计出版社。
- 广东省统计局，国家统计局广东调查总队(編) 2021. 《广东统计年鉴—2021》。北京：中国统计出版社。
- (晉)郭璞，長澤規矩也 1973. 《爾雅》。東京：古典研究会。
- 李民，王健(撰) 2010. 《尚书译注》。上海：上海古籍出版社。
- 李新魁 1994. 《广东的方言》。广州：广东人民出版社。
- 歐陽覺亞，周無忌，饒秉才(編著) 2018. 《廣州方言字字典》。香港：商務印書館(香港)有限公司。
- 饒秉才(編) 1983. 《广州音字典：普通话对照》。广州：广东人民出版社。
- 任百强 2010. 《广东木鱼说唱史研究》。香港：中国评论学术出版社。
- 邵慧君，甘于恩 2018. 《粵語詞彙講義》。香港：商務印書館(香港)有限公司。
- 石毓智 2011. 《语法化理论——基于汉语发展的历史》。上海：上海外语教育出版社。
- (汉)司马迁(撰)，韩兆琦(评注) 2011. 《史记》。长沙：岳麓书社。
- 吴福祥(主編) 2005. 《汉语语法化研究》。北京：商务印书馆。
- (漢)許慎(撰)，(清)段玉裁(注) 1981. 《說文解字注》。上海：上海古籍出版社。
- 杨伯峻(編著) 2018. 《春秋左传注》。北京：中华书局。
- 詹伯慧(主編) 2002. 《广州话正音字典：广州话普通话读音对照》。广州：广东人民出版社。
- (清)招子庸等(撰)，陈寂，陈方(评注) 2017. 《粤讴》。广州：中山大学出版社。
- 中国社会科学院语言研究所，中国社会科学院民族学与人类学研究所，香港城市大学语言资讯科学研究中心(編) 2012. 《中国语言地图集：第2版·汉语方言卷》。北京：商务印书馆。
- 張勵妍，潘禮美，倪列懷(編著) 2018. 《香港粵語大詞典》。香港：天地圖書。

## 引用例出典

### 著書

- 程俊英，蔣見元 1991.《詩經注析》：621 頁。北京：中華書局。
- 东莞群众艺术馆（編）2006.《东莞木鱼书》。北京：大众文艺出版社。  
《金叶菊》  
《石出香莲记》
- 东莞群众艺术馆（編）2008.《东莞木鱼书》。北京：大众文艺出版社。  
《背解红罗》  
《后续背解红罗》
- （晉）郭璞，長澤規矩也 1973.《爾雅》。東京：古典研究会。
- 李民，王健（撰）2010.《尚书译注》：217 页。上海：上海古籍出版社。
- 任百强 2010.《广东木鱼说唱史研究》。香港：中国评论学术出版社。  
《二荷花史》  
《玉蔡宝扇》
- （汉）司马迁（撰），韩兆琦（评注）2011.《史记》：443 页。长沙：岳麓书社。
- （漢）許慎（撰），（清）段玉裁（注）1981.《說文解字注》。上海：上海古籍出版社。
- 杨伯峻（編著）2018.《春秋左传注》：389 页。北京：中华书局。
- （清）招子庸 等（撰），陈寂，陈方（评注）2017.《粤讴》。广州：中山大学出版社。  
廖恩焘《题时局图》，1900  
招子庸《潇湘雁》，1828

### コーパス

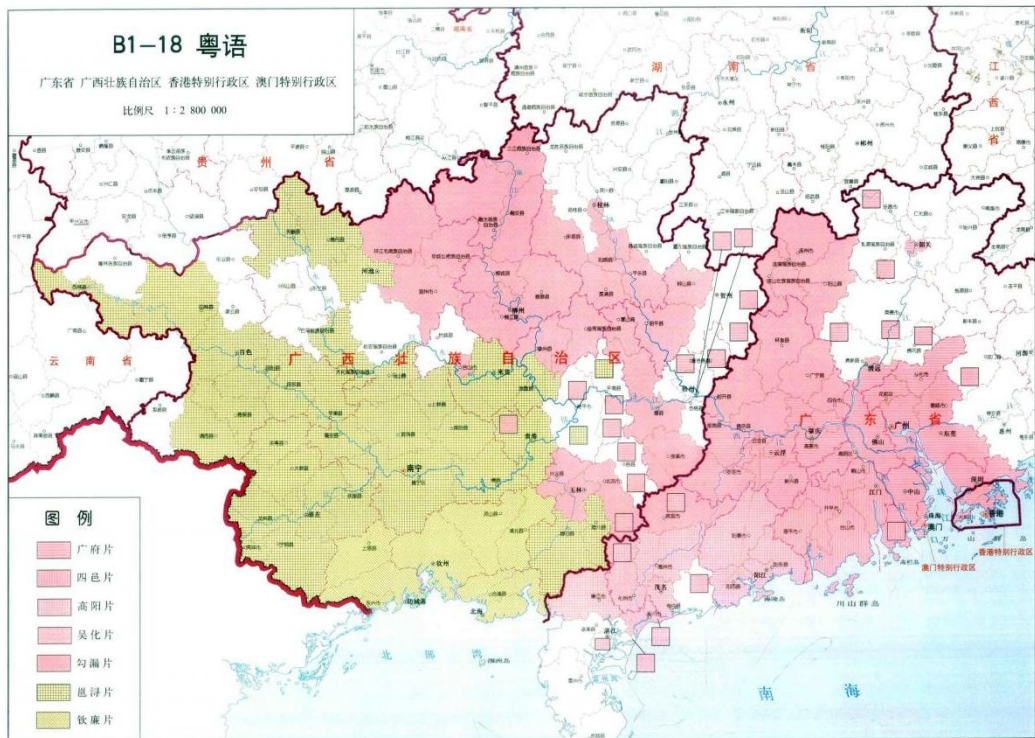
- 香港科技大學. 早期粵語標註語料庫, 檢索日 2021/10/14,  
<http://database.shss.ust.hk/Cantag/>
1899. *The Gospel according to St. Mark in English and Cantonese* 《馬可傳福音書(中西字)》. Shanghai: American Presbyterian Mission Press.
- Ball Dyer James. 1912. *How to Speak Cantonese (4th Edition)*. Hong Kong-Shanghai-Singapore-Yokohama: Kelly & Walsh Limited.
- Bruce Donald E. 1877. *Easy Phrases in the Canton Dialect of the Chinese Language (2nd Edition)* 《英華常語合璧》. San Francisco: Bruce's Printing House.
- Fulton A. A. 1931. *Progressive and Idiomatic Sentences in Cantonese Colloquial*. Hong Kong-Shanghai-Singapore: Kelly & Walsh Limited.
- Thomas Lathrop Stedman and K. P. Lee. 1888. *A Chinese and English Phrase Book in the Canton Dialect*. New York: William R. Jenkins.
- 香港教育大學語言學及現代語言系. 香港二十世紀中期粵語語料庫, 檢索日 2021/1/14,  
<http://corpus.eduhk.hk/hkcc/>
- 陳文《大廈情殺案》，1959
- 陳中堅，譚伯葉，鄧轟《好女十八嫁》，1954
- 楚原《神秘的血案》，1966
- 馮峰《同撈同煲》，1956
- 馮峰《細路祥》，1950

黃岱《人面桃花相映紅》，1956  
蔣偉光《為情顛倒》，1952  
梁琛《十月芥菜》，1952  
莫康時《難為了嬌妻》，1966  
唐滌生《紅菱血（下）》，1951  
汪福慶《癡兒女》，1943  
王鏗《奸情》，1958  
王鏗《女生外向》，1965  
王天林《失匙夾萬》，1956  
吳回《金蘭姊妹》，1954  
吳回《難得有情郎》，1962  
吳回《小婦人》，1957  
楊工良《亞福對錯馬票》，1960  
珠璣《龍鳳合歡花》，1960

陸鏡光. 香港粵語語料庫, 檢索日 2021/12/6,  
<http://compling.hss.ntu.edu.sg/hkcancor/>  
TN-038, 1997/8/14  
TN-R002, 1998年2月20日  
TN-R007, 1998年2月25日  
TN-R011, 1998年2月27日

單韻鳴. 廣州話口語有聲語料庫, 檢索日 2021/1/14,  
<http://huayu.jnu.edu.cn/corpus6/Index.aspx>  
《飛揚校園》，2010年4月9日  
《拉闊車廂》，2010年4月14日、2010年4月15日  
《零點衝動》，2010年4月7日  
《時尚東西》，2010年3月29日  
《由理話事》，2010年4月15日  
《招積嘆世界》，2010年4月4日

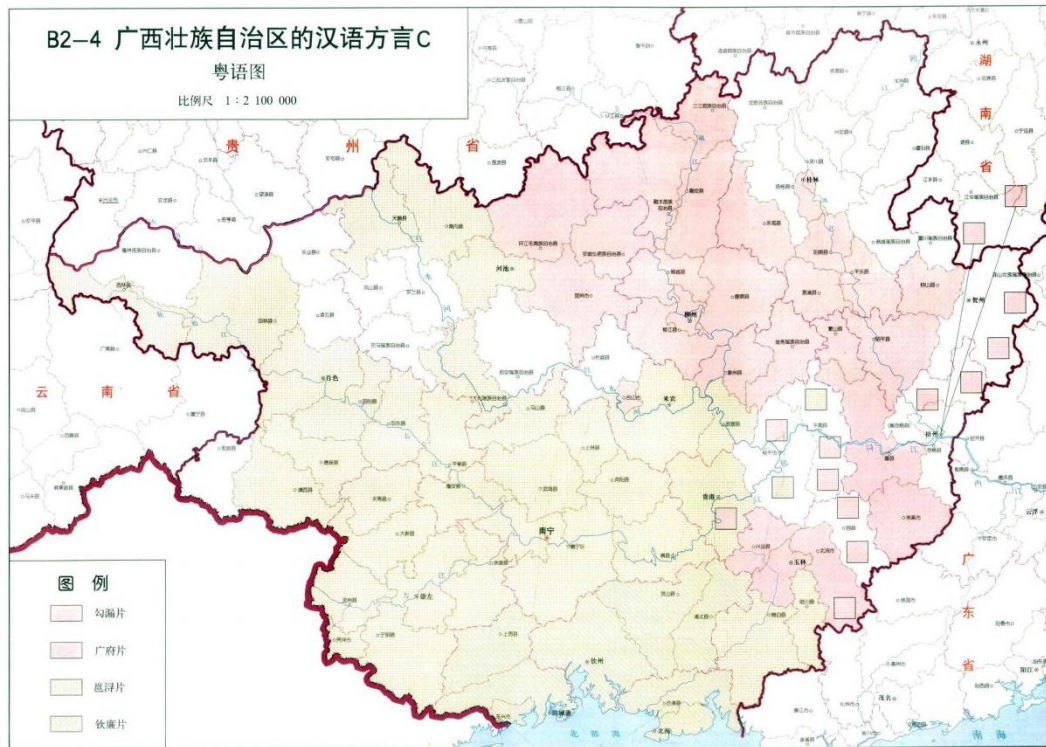
# 附录 1



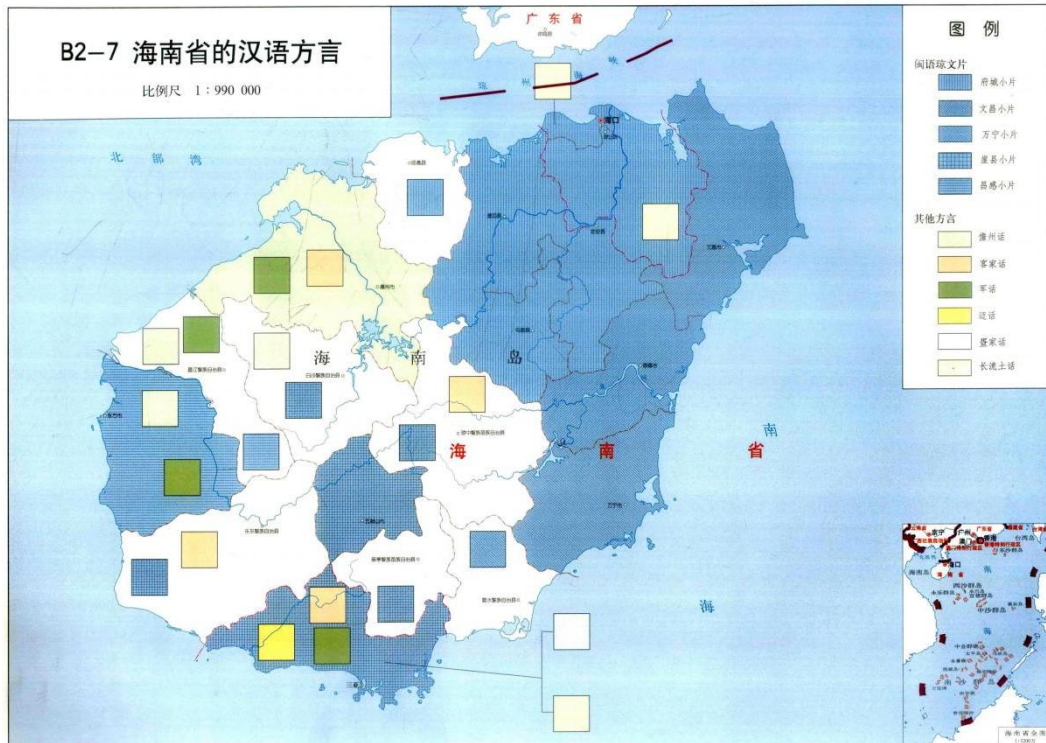
中国社会科学院语言研究所, 中国社会科学院民族学与人类学研究所, 香港城市大学语言资讯科学研究中心 (编) 2012. 《中国语言地图集: 第 2 版. 汉语方言卷》: B1-18 页. 北京: 商务印书馆。



中国社会科学院语言研究所, 中国社会科学院民族学与人类学研究所, 香港城市大学语言资讯科学研究中心 (编) 2012. 《中国语言地图集: 第 2 版. 汉语方言卷》: B2-1 页. 北京: 商务印书馆。



中国社会科学院语言研究所，中国社会科学院民族学与人类学研究所，香港城市大学语言资讯科学研究中心（编）2012.《中国语言地图集：第2版·汉语方言卷》：B2-4页。北京：商务印书馆。



中国社会科学院语言研究所，中国社会科学院民族学与人类学研究所，香港城市大学语言资讯科学研究中心（编）2012.《中国语言地图集：第2版·汉语方言卷》：B2-7页。北京：商务印书馆。



## 付録 2

木魚書、粵謳における「界」の文例

文法機能	動詞	与格標識	使役動詞	受身標識	道具標識	疑問
文例の数	133	47	202	57	31	5
割合	28.0%	9.9%	42.5%	12.0%	6.5%	1.1%

合計：475

「早期粵語標註語料庫」における「界」の文例

文法機能	動詞	与格標識	使役動詞	受身標識	道具標識	疑問
文例の数	128	37	51	6	28	0
割合	51.2%	14.8%	20.4%	2.4%	11.2%	0.0%

合計：250

注：「早期粵語標註語料庫」に同じ本の二つの版が含まれ、二つの版にある文例に差がない場合は、一つの文例のみとして計上する。

「香港二十世紀中期粵語語料庫」における「界」の文例

文法機能	動詞	与格標識	使役動詞	受身標識	道具標識	疑問
文例の数	818	1057	1213	489	38	0
割合	22.6%	29.2%	33.6%	13.5%	1.1%	0.0%

合計：3615

「香港粵語語料庫」における「界」の文例

文法機能	動詞	与格標識	使役動詞	受身標識	道具標識	疑問
文例の数	160	120	149	53	3	0
割合	33.0%	24.7%	30.7%	10.9%	0.6%	0.0%

合計：485

「広州話口語有声語料庫」における「界」の文例

文法機能	動詞	与格標識	使役動詞	受身標識	道具標識	疑問
文例の数	139	127	186	44	2	0
割合	27.9%	25.5%	37.3%	8.8%	0.4%	0.0%

合計：498